

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤和 太	職名	准教授	学位	博士(医学) (九州大学 2005 年)
----	------	----	-----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研 究 課 題
1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担 当 授 業 科 目
公衆衛生学Ⅰ (前期) 公衆衛生学Ⅱ (後期) 公衆衛生学 (前期) 健康管理概論 (前期) 管理栄養士演習Ⅰ (前期) 管理栄養士演習Ⅰ (後期) 国際栄養学 (後期) 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生学Ⅰ】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気がついた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【健康管理概論】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【公衆衛生学Ⅱ】 公衆衛生学Ⅰでは、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学Ⅱの授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会 日本疫学会 日本癌学会 日本がん疫学研究会 日本公衆衛生学会	会員 代議員 会員 会員 会員	2002 年 10 月～現在に至る 2003 年 1 月～現在に至る 2003 年 10 月～現在に至る 2004 年 8 月～現在に至る 2010 年 12 月～現在に至る

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 健康管理概論 第3版 第8章	共著	2022 年 1 月	講談社	栄養学 NEXT シリーズ 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
（学術論文） 1. Associations between peroxisome proliferator-activated receptor γ (PPAR- γ) polymorphisms and serum lipids: two cross-sectional studies of community-dwelling adults.	共著	2020 年 8 月	<i>Gene</i> .2020 Aug 2;145019.	① 日本多施設共同コホート研究における横断研究で、PPAR- γ 多型 (rs1801282、rs3856806、rs12497191、rs1151999、およびrs1152003) と血清脂質との関連を検討したものである。今回は静岡地区のベースラインデータと第2次調査データを用いて検討した。結論として、rs3856806およびrs12497191多型は、脂質異常症及び高LDLコレステロール血症のリスク低下と関連している可能性があることが示された。 ② 共著者 Takashi Matsunaga, Mariko Naito, <u>Guang Yin</u> , 他12名 ③ 役割：データ収集、統計分析、論文作成、doi: 10.1016/j.gene.2020.145019.
2. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.	共著	2018 年 2 月	<i>Gene</i> . 2018 5; 642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006 年と 2007 の間で募集された 35—69 歳、4972 人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた 7 つの選択された SNP の連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	Nutrients. 2016 Sep 6; 8(9). pii: E545.	相互作用が見られた。 ② 共著者 Seiki T, Naito M, Guang Yin, 他9名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P172-177
4. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	Nagoya J Med Sci. 2016 May;78(2):183-93.	① 日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。 ② 共著者 Hinako Nanri, Guang Yin, 他16名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P1-16
(翻訳) 医学部教科書 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 モンゴル語・ 英語・日本語語彙集	共著	2022年1月	Medic Media 名古屋大学	名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。現在、vol.3がすでに翻訳が終了し、印刷された。

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) 1. <i>PASS1</i> 遺伝子多型と肝機能異常との関連	共著	2022 年 1 月	第 32 回疫学会総会(オンラインで開催)	① 対象者は J-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2703 名である。この研究では、 <i>PAPSS1</i> 遺伝子多型と肝機能異常との関連が示唆された。 ② 藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他 11 名 ③ 第 32 回疫学会学術総会抄録集 (P156)
2. <i>PAPSS1</i> 遺伝子多型と空腹時血糖値との関連	共著	2021 年 1 月	第 31 回疫学会総会(オンラインで開催)	① 対象者は J-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2772 名である。この研究では、 <i>PAPSS1</i> 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ② 藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他 11 名 ③ 第 31 回疫学会学術総会抄録集 (P126)
3. カフェイン代謝酵素 <i>CYP1A2</i> 遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020 年 2 月	第 30 回疫学会総会(京都大学百周年時計台記念館)	① 対象者は J-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2695 名である。この研究では、 <i>CYP1A2</i> rs2472304 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ② 銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他 11 名 ③ 第 30 回疫学会学術総会抄録集 (P146)
				教育研究業績総数 (2022年3月15日現在) 著書 5 (内訳 単 1, 共 4) 学術論文 41 (内訳 単 0, 共 41) 学会発表 29 (内訳 単 0, 共 29)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
アジア太平洋がん予防学会（現在に至る）	会員	2002 年 10 月～
日本疫学会（現在に至る）	代議員	2003 年 1 月～
日本癌学会（現在に至る）	会員	2003 年 10 月～
日本がん疫学研究会（現在に至る）	会員	2004 年 8 月～
日本公衆衛生学会（現在に至る）	会員	2010 年 12 月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
保健福祉学部研究所運営委員会 委員 2017 年度～現在 予算委員会 委員 2020 年度～現在 国際交流委員会 委員 2020 年度～現在 FD 委員会 委員 2021 年度～現在